

チェルノブイリ通信

2010年6月20日

No. 80

■発行 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26パステル館203号
TEL/FAX 092-944-3841 Email jimu@cher9.to
ホームページ <http://www.cher9.to/>
■募金口座 郵便振替口座 01770-1-65328
e-バンク ジャズ支店(支店番号201) (普) 7017104



チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。
この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



のぞみ21スタッフ、ターニャさんの息子ヤドスラブちゃん。今年1月からゴメリ市内で空手を習い始めた。

特集：ブレスト第9回検診帰国報告（3）

ベラルーシの医療環境と今後の課題

事務局日誌より主な活動報告

団体設立20年に寄せて（1）

コーヒー・紅茶キャンペーンのご案内

福祉工房「のぞみ21」スタッフ紹介

会員さん紹介コーナー

今さら聞けないチェルノブイリQ&A

募金者のお名前とメッセージ

◆特集◆ ブレスト第9回検診帰国報告(3)

ベラルーシの医療環境と今後の課題

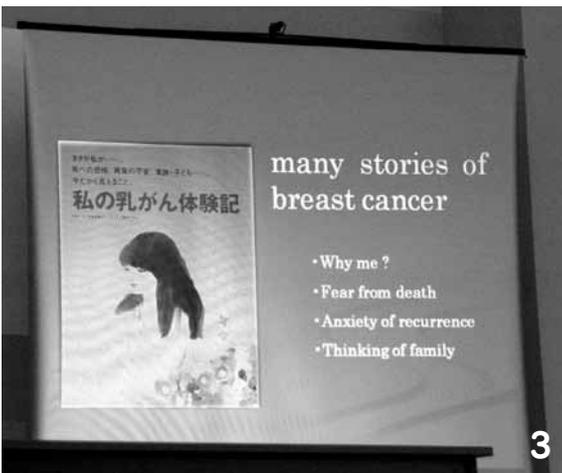
済生会呉病院

野宗 義博 医師

2009年のブレスト第9回検診に参加された野宗先生からの報告です。
野宗先生は今回、2007、2008年に続き、3度目のベラルーシ訪問でした。
現地での医療支援活動と医療現場の様子についてご報告いただきました。



- 1) 乳ガンの実態について講義を行う野宗先生。
- 2) ベラルーシ赤十字本部にて、カルバノフ総裁を囲んで。
- 3) 講義の資料、日本での乳ガン体験記について。



◆今でも残存する

被曝の影響について

2009年3月、ブレスト州立内分泌診療所所長であるアルツール・グリゴロビッチ医師が、第14回国際シンポジウム(広島大学主催)に参加のため来日されました。その時の講演で、ブレスト州での甲状腺ガンの患者数が、被曝後年々増加にあると報告されました。

疾患の増加は、住民検診の結果だけではないようです。アルツール医師たちは数年前から、ポータブルの甲状腺エコー(チェルノブイリ医療支援ネットワークが寄贈)とともに移動検診車で、ブレスト州周辺の住民検診を行っています。そのため、多くの住民を対象に検診しますので、無症状の内に甲状腺の異常が早期に発見できます。

わが国では甲状腺の移動検診システムはありません。彼らの報告では、この国での甲状腺ガン患者数が毎年のように増加しています。チェルノブイリ原発事故から既に20年以上も

ベラルーシ共和国地図



経過しているにもかかわらず、原発事故現場から遠く離れた、ポーランド国境に近いブレスト市周辺に、今も被曝の影響が残っていると思われる。今後も住民の健康被害は、被曝の影響を無視できません。

◆ベラルーシの医療問題について

～赤十字本部での報告から～

赤十字本部総裁の話では、現在ベラルーシの住民の健康問題として、国の経済的問題があります。

すなわち、医療援助費の不足。医療費予算が被曝者を含めて一般住



ベラルーシ赤十字にて

民に対して不十分です。また、十分な数の医療施設が設立できていません。
わが国では、レントゲン装置や大型医療機器であるCTやMRI装置はほとんどの医療機関にあります。この国ではレントゲン装置が不足しており、肺のレントゲン写真も、満足に撮影できていません。レントゲン装置が高価で買えなくて困っています。被曝とは関係ありませんが、この国では現在、結核患者数が増加しているにも関わらず、レントゲン検査も出来ず、深刻な状況のようです。この国の経済的な大きな課題のひとつです。



ブレスト州立病院の外観

◆ブレスト州における医療環境について

ブレスト州の基幹病院は年々立派に整備されてきています。以前から、我々医療支援グループは、ブレスト州立内分泌診療所での甲状腺エコーや穿刺吸引細胞診を紹介、そして導入のお手伝いをして来ました。現在、この病院の医師（アルツール医師やウラジミール医師）、そして検査技師が実際に、甲状腺の検査から腫瘍の穿刺吸引細胞診まで実施可能となつていきます。今では技術的な問題は無く、検査方法は既に確立されており、我々の出番はありません。



吸引穿刺を行うアルツール医師

逆に今回参加した日本医科大学の学生、田中君は、この診療所で穿刺吸引細胞診の指導を受けていました。別室には新しい大型超音波装置（中国製）も導入されており、また検査技師も多数働いており、病院の機能が年々充実されて来ているように思えました。
また、ブレスト州立病院には大きな入院病棟（約700床）も完成していました。この病棟には、手術室は無菌ルームを含めて13室もあり、外科手術や整形手術、婦人科手術など総合病院としての機能を有していました。手術室では最新式の麻酔装置やモニター類が設置されており、そして麻酔の薬剤もわが国と同じものを使用していました。



内視鏡手術の準備風景

この二室で、内視鏡カメラを用いた最先端の甲状腺手術が、日本医科大学の清水教授の執刀で行われました。今回、実際に使用した手術器具は、日本から二部持参しましたが、ほとんどはこの病院の器具で対応出来、また、手術室の看護師の技術なども日本と何ら変わりはありませんでした。
このように、この病院では既に多数の最新医療器具の整備や、また医師や看護師などの医療従事者の技術アップも達成されているように思えました。
一方、別の少し離れた敷地内には、ガンセンターの整備も始まっています。ここではガンの放射線治療や制ガン剤による治療が主な目的です。

現在、予算不足で建物の一部しか建てられていませんが、今後完成するとガンの総合病院として期待されています。

今回は、ガンセンターの医師を対象に、日本の乳ガンの実態を講演しました。彼らは乳ガンの放射線治療や制ガン剤治療に大変興味があり、すでに多くの最新医学情報は西ヨーロッパから導入されているように思えました。

ベラルーシでは、わが国と違い、個人病院や小さなクリニックはほとんど存在しません。その代わりに、それぞれの地区に基幹病院として総合病院が徐々に整備拡充されてきており、将来の発展が期待されます。でも、地方の住民は交通手段が乏しく、大変不便かもしれません。

また、赤十字総裁の話によると、



講義を聴く現地の医療関係者

◆今後の医療支援の問題
今でも医薬品の不足は大きな問題だそうです。また、限られた医療費では精巧な高額医療器械の購入は困難であり、現地の多くの医療器具は日本製ではありませんでした。

被曝20年以上が経過した現在でも、毎年甲状腺ガン患者さんが増大しています。また原因は不明ですが、わが国と同じように、乳ガン患者さんが増大しています。それに加え、結核患者さんも増えています。

乳ガンの増大に対しては、現在この国でも、十分な対策は確立していません。現在、最も有効な手段は、ガンの早期発見、そして早期治療です。

すなわち、乳ガンの診断には、40歳以上の女性に対しての定期的なマンモグラフィ（乳腺のレントゲン撮影）が必要です。しかし、住民のマンモグラフィへの理解が乏しく、また、その特殊レントゲン装置が不足しており、十分な検査が出来ていません。

今後はレントゲン装置や乳腺専用の超音波装置、そして、甲状腺ガン診断と同じく穿刺吸引細胞診の普及が必要です。乳ガンの診断のため、多数の高額医療器具や細胞診検査技師や病理医の育成、そして、健康診断システムの確立が必要とされ

ます。

在ベラルーシ日本大使館での情報では、昨年までは1件あたり数百万円前後の医療支援を行っていたそうです。わが国も決して裕福な国ではありません。また、昨年に政権も変わりましたので、今までのような政府からの支援も行えないかもしれません。わが国の多額の医療支援は年々困難になってまいりますが、ベラルーシ赤十字本部をはじめ、ベラルーシの多くの住民や医療従事者は我が国の援助を大いに期待しています。今後も我々の限られた資金を有効に利用しながら、出来る限りの人材援助、人材交流派遣、そして医薬品、医療器具などの経済援助を引き続けて行きたいと思えます。



講義ミンスク10番病院での会食風景

マトリョーシカ絵付け会をします！

福祉工房「のぞみ21」より仕入れた無地のマトリョーシカに色を付けて、世界に一つしかないオリジナルのマトリョーシカちゃんを作ってみませんか？

日時：8月28日(土)14～18時(途中退場可)
場所：福岡市NPO/ボランティア交流センター“あずみん”
セミナールーム(福岡市中央区大名2-6-46-5F)
参加費：1,000円/マトリョーシカ1つ(5ピース入り)
定員：10名(要予約・先着順)

★ご予約、お問合せは事務局までお気軽にどうぞ★

この事業は(財)よかトピア記念国際財団の「国際交流活動助成金」を受けて実施します。





今年6月28日、チェルノブイリ医療支援ネットワーク(旧:チェルノブイリ支援運動・九州)は設立20周年を迎えます。この節目にあたり、これまでの活動をふり返ってみました。山あり、谷ありの20年。今号では団体設立から1997年の本格的な医療支援の始まりまでについてご紹介します。

写真で迎える活動20年

1990年12月

被災地の子どもたちへ
粉ミルクやクリスマスプレゼントを！



団体発足後、街頭募金や会報での呼びかけによって集まった募金で、放射能測定機や粉ミルクを購入し、絵本、クリスマスカードなどのプレゼントと一緒に、最初の支援物資がウクライナへ届けられました。

1992年12月

保養施設「サナトリウム・九州」をオープン



被災地の子ども向け保養施設「サナトリウム・九州」をベラルーシの首都ミンスク郊外に建て、現地 NGO と共同で運営しました。日本国内では里親運動や募金キャンペーンが展開されました。96年秋までに2,700名以上の子どもたちがここで保養しました。

1993年9月

民族アンサンブル
「パレスカヤ・ゾーラチカ」来日公演

ベラルーシの子どもアンサンブル「パレスカヤ・ゾーラチカ」(草原の星たち)が来日し、九州・山口の各県(熊本県を除く)で公演があり、大きな反響を呼びました。

1990年6月28日

「チェルノブイリ支援運動・九州」結成



←
パソコン通信ネットワーク有志が作成したパンフレット。当時始まったばかりのパソコン通信で被害の状況が伝わり、救援団体の結成が広がった。

1986年4月26日に起きたチェルノブイリ原発事故は世界中に大きな衝撃を与えました。被災地の状況や支援要請などの情報が入り始めた90年以降、日本各地で支援団体が立ち上がり、九州でも有志の呼びかけにより「チェルノブイリ支援運動・九州」が誕生しました。

1991年6月

第1次調査団派遣



ウクライナへ贈られた最初の支援物資は輸送中に行方不明になり、届いたのは翌年4月のことでした。現地の実態調査、そして支援を直接届けるために、ウクライナとベラルーシへ調査団を派遣しました。以後、年に1度のペースで調査団が派遣されました。



来日した子どもたち



94年1月

1996年8月
第1回スタディーツアー



95 年に来日した作文集の著者の一人、リュドミラ・チュプチュクさんの暮らすゴメリ州グルシュコピッチ村を訪問するツアーが企画され、若者を中心に 20 名が参加し、サナトリウムや病院見学なども行われました。



村から歓迎を受ける



森でのピクニック

1995年4月
チェルノブイリの子どもたちの作文集
「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」を発行



被害を受けた子どもたちの書いた作文約 50 編の日本語版を出版しました。事故による健康被害や生活の変化、故郷への思いなどが綴られ、各地で大きな反響を呼びました。また同年 8 月には著者 4 名が来日し、出版の編集ボランティアに関わった高校生たちと交流しました。



1996年11月
ベラルーシよりブイゾフ親子が来日講演



ベラルーシの新聞記者ワレリ・ブイゾフさんと、その息子のピクトル君が来日し、九州、山口の 6 か所で講演を行い、事故後の被災地ベラルーシの惨状を伝え、支援を呼びかけました。

1997年7月
プレスト州ストーリン地区での甲状腺ガン検診プロジェクトがスタート



90 年代半ばより、被災地で小児甲状腺ガンが増えているという情報が入るようになりました。

96 年、当時ウクライナやベラルーシで医療活動に関わられていた広島の武市宣雄医師や医療通訳の山田英雄さんと出会い、「甲状腺ガン検診を中心とした医療支援」に取り組むことになりました。

活動の拠点は汚染州でありながら、国内外からの支援が十分でなかったプレスト州。その中でも特に甲状腺ガンの発症数が多かったストーリン地区で検診プロジェクトがスタートし、2001 年までの間、年に 1、2 回のペースで医療検診団が派遣されました。

この年にはストーリン地区中央病院へ甲状腺ガン検診のためのエコーや顕微鏡が贈られ、また医療スタッフや物資の搬送のための移動検診車「雪だるま号」がベラルーシ赤十字へ贈呈されました。



スタッフのつばやき

学生ボランティアとして、初めて訪ねた八幡東区の事務所は、トイレの天井にはツタが這い、夏場は高温になるという部屋。壊れかけた扇風機と内輪を傍らに、当時のスタッフの方に話を聞かせてもらいました。遠くチェルノブイリへの支援は、目の前の地道な裏方作業に支えられているのだと思いました。(ゆ)

皆さまからお寄せいただいた



メッセージをご紹介します！



中村隆市さん
(福岡県)



㈱ウインドファーム代表の中村さんは、初代運営委員長として活動に関わってられました。現在もチェルノブイリ支援コーヒ―などでご協力頂いています。

この 20 年間に何度も放射能汚染地を訪問し、健康被害に苦しむ沢山の子どもや若者に会ってきた人間として、2008 年7月にドイツ政府が発表した調査結果が世界に伝わることを願っています。

*原子力発電所の周辺5キロ以内に住んでいる5歳以下の子どもたちを調査したところ、小児ガンの症例が平均より60%高く、白血病に限ると117% (2倍以上) 高かった。これ以上、放射能で子どもたちを苦しめたくない。

天野亜希さん
(岡山県)



天野 (旧姓・三本) さんは臨床検査技師として、2004 年、2005 年のプレスト市での甲状腺ガン検診に参加されました。

医療スタッフとして数年間、活動に携わらせていただきました。被災地の方々や現地スタッフとの温かい交流は今でも覚えています。満足な医療器具が無い所での甲状腺ガン検診もいい経験となりました。今はチェルノブイリ通信で皆様の活躍を拝見していますが、今後も現地スタッフとともにさらに発展されることを願っています。この場をお借りして、支援活動に携わる機会を与えてくださった武市クリニック様に御礼申し上げます。

いのうえしんぢさん
(福岡県)



イラストレーターのいのうえさんは、イベントのチラシデザインなど、色々ご協力頂いています!写真は昨年のヘアサロン・スネガピークで、マトリョーシカちゃんとしたいのうえさん。

20周年ごくろうさまです。あんまりお手伝いできてなくてスイマセンが…おたがいに、ひたむきさとゆるやかさを連れて、活動を続けていきたいですね。

福井寿雄さん
(福岡県)

福井さんは初代事務局スタッフとして活動をサポートしてられました。

福岡市の今泉だったか場所ももう定かではないが、農国会館で開かれた会合に私は参加していた。なぜそこに居たのか思い出せないが、何かの集会の後だったようだ。出席者は 10 人ほど。チェルノブイリ原発事故の被害者をなんとかしなければとの思いで集まった人たちだった。

私はロシア語をほんの少し齧っていたので、現地の様子を報じるペラルーシの新聞記事をほそぼそと訳して報告するという役割で事務局に入った。初代代表の自宅が事務所だったので、北九州市モノレールで終点近くまで乗って、京都の嵐山に似た風景の橋を渡って何度も通った頃が懐かしい。

現理事長の河上氏は最初期の事務局メンバー。その献身に頭が下がります。



引き続きメッセージを募集しています。FAX、メール、ハガキ、郵便振込用紙のメッセージ欄などをご利用の上、どしどしお寄せください!

字数は 100 ~ 150 字程度。お名前の掲載について、[本名/ペンネーム/匿名希望] のいずれかをお書き添えください。

メッセージ送信フォームはこちら!

→ <http://my.formman.com/form/pc/lrBEL9z2RFeCz51C/>

福祉工房「のぞみ21」スタッフの紹介

ベラルーシ南部にあるゴメリ市の福祉工房「のぞみ21」では、チェルノブイリ原発事故の被災者や、障がいを持つ青年たちがそれぞれの体調に合わせて、刺しゅうや縫製、木工などの仕事に取り組んでいます。チェルノブイリ医療支援ネットワークでは、「のぞみ21」の商品を日本でも紹介することで、工房の運営や活動を支援しています。



【第3回】

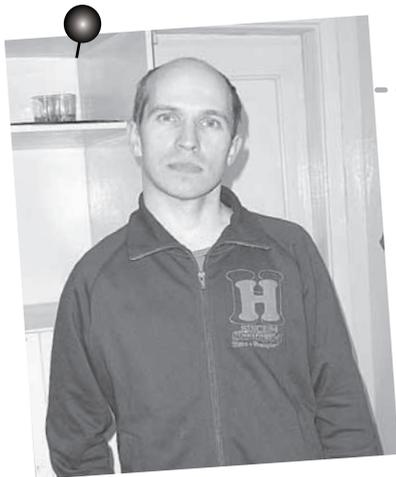


デレト・ベーラさん(左) 1951年生まれ

娘のレーナ(写真右)との二人暮らし。ベーラとレーナは身体障害者2級(癱瘓)です。レーナは喘息もありません。ベーラは工房で裁縫師として働いていましたが、現在は体調が悪く働けません。従って、年金と身体障害者手当で暮らしています。レーナは義務教育卒業後、今学んでいる商業単科大学に入りました。彼女は大変、社交的で知識欲がある女の子です。今、大学では正課以外に歴史を学び、舞踏芸術(振り付け)も学び舞台活動にも参加しています。

サギンディコフ・セルゲイさん 1977生まれ

家族と4人で暮らしています。セルゲイは身体障害者2級(知能遅延、癱瘓)です。工房では絵付けをしていましたが、各家庭での作業に移ってからは働いていません。彼は大変、内向的(自閉的)な性格です。工房からの注文も健康上の理由から請け負う事ができませんが、我々は彼に援助する事は続けますし、日本の皆さんの援助も彼の家まで届けます。



リポフ・セルゲイさん 1973生まれ

セルゲイは両親と暮らしています。身体障害者2級(重度脳性まひ)です。工房では木工加工をしていましたが、各家庭での作業へ移ってからは仕事をする場所がありません。現在は工房の仕事として、木工、ストラップの玉飾りやマグネット用の磁石の取り付け等をわずかながらしています。



ラブツウホーバ・ユーリヤさん 1957生まれ

両親と暮らしています。母親は数年前に身体障害者になりました。ユーリヤは身体障害2級(精神分裂症)です。職業はありません。工房で裁縫を学び少し彩色もできます。家庭での作業に移ってからは他の職を探していますが健康状態がよくなく働くことができません。現在は工房の仕事として、裁縫やストラップ、マグネットの作成等のわずかな仕事をしています。



いまさら人にはきけない?! 3か月の避難はどうやって行われたの? チェルノブイリ

4年7月 1986



キモチいい
天気!

こんな日は
コンガリやけて
イケてる男子に
なってるモテモテ...



ま、
『今のところは』
だけとね

まあ今の二ホン
では、爆弾が降って
くることもないし、
放射能あびるわけ
でもないし...

まったく
シアワセな
もんよわねー

あコウちゃん!

あの日も
ちょうどこんな
おだやかな日
だった!

あの日って、
チェルノブイリ
原発事故の日?

でも、放射線が空気
中にあふれがえって
るのに、おだやかな
なんて言ってるられ
なかったでしょ

いいえ、
ほとんどの人は
事故のことなんて
知らなかったから、
いつもどおりの
生活をしてたのよ

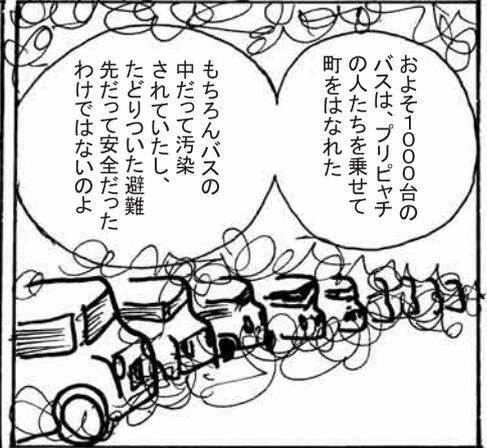


なにげない日常が、
まもなく崩れて
しまうなんて
知るはずも
なく...

目撃者や
原発労働者が
こっそり家族に
知らせたりする
こともあったけど

ようやくおおよげに
されたのは、原発労働者の
町プリピャチで、27日
つまり事故の翌日の
正午...

事故が発生しました。
3日分の食べ物と身の
回りのもの、それに
身分証明書を持って、
避難してください。



およそ1000台の
バスは、プリピャチ
の人たちを乗せて
町をはなれた

もちろんバスの
中だって汚染
されていたし、
たどりついた避難
先だって安全だった
わけではないのよ

それ以外の地区
では、さらに
対応は遅かった

たとえばウクライナ
の首都キエフでは、
5月1日に、市民は
メーデーを祝う
パレードに参加させ
られていたの

30キロ圏内の避難が
ようやく始まったのが
事故後1週間も経った
5月2日



最終的には
全地域で13万5千
人が避難し、
500を超える町や
村が居住禁止になった



だって、
国の王族人たちは
放射能が危険だって
知ってたんだろ?

事故のことをかくし通そうと
した人たちがいたってことよ
それだけ、コトの重大さが理解
されなかったとも言えるし、
国のために市民が犠牲にされた
とも言えるよね...

私の時間も二つに引き裂かれたようです。
1986年4月26日以前とその後と。

...作文集
『わたしたちの涙で
雪たまるが溶けた』
に寄せられた、少女
エレーナの言葉よ

この日を境に、人々は
転々と避難を繰り返さ
なければならなかったり、
家族がバラバラになったり、
病气や、そして死...

それから24年、この空のむこうで
今もほくたちと同じ日々を
そうやって生きている人たちが
いるってことだね...



事務局日誌より 主な活動報告



日々の活動の様子は、HPの「事務局スタッフブログ」でも紹介しています。

<http://www.cher9.to/>

◆3月28日 「そつれっしや」コンサートにて物販



コンサートの様子

福岡市のアクロス福岡で行われた記念音楽会へ朗読「月光の夏」と合唱構成「そつれっしやがやってきた」にて、会場ホールそばの物販コーナーの2部を借り、「のぞみ21」雑貨と支援コーヒー・紅茶の販売などをさせていただきました。また関係者の皆さまからカンパもいただきました。ありがとうございました！

◆4月11日 イエローレシート贈呈式に参加



古賀店には12団体が登録中（4月11日現在）

イオンの社会貢献活動「幸せの黄色いレシートキャンペーン」は、毎月11日のお買い物レシートの売上金額の1%が地域で活動する登録団体に寄付されるといふ仕組みです。チエルノブイリ医療支援ネットワークは古賀店に登録中です。09年度下半期分を集まった2800円分のギフトカードをいただきました。大切に使用させていただきます！

終戦65年『そつれっしやがやってきた』

記念音楽会を終えて…

久保山 千可子 さん

私は「ル・セルクル」という団体で、音楽企画を中心に、ピアノ教室、合唱サークル、コンサート主催などを行っています。名前の意味は、フランス語で「輪」。心の輪、友達輪、音楽の輪。今年は太平洋戦争が終わって丁度65年の年にあたり、更には、そつれっしやが走って60年。そつれっしやとは、戦争中各地の動物園で動物たちが処分されていた中、必死に守り抜かれた名古屋の東山動物園の象を見に行く為に、全国各地の子ども達が運動を展開し、国鉄が協力し走らせた列車です。戦争の悲惨さを訴えるとてもつらいお話ですが、その実話に音楽が付き、全国で歌われている作品です。チエルノブイリ医療支援ネットワーク(CMN)の小山浩一先生もこの作品には、昔から取り組んでおられていたので、演奏会に協力して頂きました。沢山の方と声を合わせて練習し、本番はすばらしいコンサートとなりました。

当日は、原作者、作曲者の対談もあり、その当時の話に感動し、終了後には、チャリティの意味で、原作の絵本の売上げを募金箱へ入れるなどで原作者の小出隆司先生のサイン会も長蛇の列となりました。CMNの物販の中に「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」という本があり、私はその本と出会う事が出来ました。こんなに知らぬい事実があったのかと呆然となるばかりで、悲しみにくれ、益々チャリティコンサートをする意味を大きく深く考えて、今再び色々な出会いに感謝しています。募金は簡単に出て来ますが、内容を知るといふ事には中々出会う事が出来ません。CMNの活動の意味を知り、改めて、若い世代にこの事を伝えていきたいと考えています。

この夏再び、『そつれっしやがやってきた』を福岡で公演する事が決まりました。7月24日(土)、南市民センターにおいて「平和の祈り」コンサートの途中で歌います。このコンサートを通して、「今日、自分達に出来る事を、そして「伝え続けていく事」、「忘れてはならない事」をテーマに全国各地の方々と一緒に歌いたいと思います。そして、小さな事でも沢山集まれば大きな力になることを願って、募金活動も続けていきたいと思えます。ル・セルクルという私のつけた団体の名前が、本当の意味で、世界の輪となっていく様子を願っています。

● コーヒー・紅茶キャンペーンのご案内 ●

～安全でおいしいコーヒー・紅茶を飲むことで、チェルノブイリ被災者を支えることができます～

おいしいコーヒー、紅茶を飲んで、気軽にチェルノブイリ支援に参加しませんか？
キャンペーン期間中、コーヒー・紅茶を5個以上ご注文いただいた方に、もれなく「有機栽培・南インド紅茶 リーフ 100g」もしくは別チラシ「キャンペーンプレゼント用のぞみ21雑貨カタログ」の掲載商品のいずれかを1点をプレゼントいたします！

期間 2010年6月15日(火)～7月15日(木)までのご注文分

ご注文はTEL/FAX、メール等でお気軽に事務局まで。
お買上げ総額5000円以上で送料無料となります(※)。



(※)のぞみ21雑貨などとの組合せも可能です。5千円未満の場合は実費を負担して頂きます。送料は地域によって異なります。詳しくは事務局までお問合せ下さい。



<http://www.cher9.to/coffee.html>

私も応援しています！
**会員さん
紹介コーナー**

Vol.8

このコーナーでは、チエルノブイリをともにお支えいただいている会員の皆さまより、活動への思いや現地へのメッセージをお聞かせいただきます。

取材／三島

本日の会員さん

めぐみ保育園さん
＜愛媛県西条市＞

子どもたちが苦しい思いをしていることは、

本当につらく、悲しいことでした。



●簡単な紹介をお願いします。

愛媛県西条市にある保育園です。定員は200名、職員は現在42名います。

●チエルノブイリ医療支援ネットワーク(CMN)を知ったきっかけは？

10年近く前のことなので詳しいことは忘れてしまったのですが、ベラルーシの子どもたちのことを映像で見たとときの衝撃は忘れられません。その後、CMNのことを知りました。

●なぜ支援したいと思われたのですか？

子どもに携わる仕事をしている身として、チエルノブイリの子どものことをそのまま見過ごすことはできませんでした。少しでも何かのお役に立ちたいと思いました。

CMNの活動を知り、すばらしいお仕

事をされていると感動したのを覚えて
います。

(今もそうですが)CMNなら確実に
支援を届けてくださると思いい、募金を
送らせて頂くことにしました。

職員に説明し、募金は毎月全員から
集めることにしました。当初は2ヶ月3
千円送金していましたが、途中から6
千円になりました。

職場のメンバーはよく理解してくれて
いるので感謝しています。一人では少しの
お金ですが、みんなが集まると、お役に
立つことができ嬉しです。

●チエルノブイリ原発事故について、何
か思い出はありますか？

原発事故に対する疑問点などはたく
さんあり過ぎて書ききれないくらいな
のですが、まずは事故が起こった時、何
故市民に知らせなかったのか、せめて建
物の中にいたら、その後の症状がかなり
違っていたのに…と残念でたまりません
でした。何も知らない子どもたちが苦

しい思いをしていることは、本当につらく
悲しいことでした。

当初、「チエルノブイリ通信」を読ませ
て頂いて、一人の子どもさんをヶ月サナ
トリウムに入所させてあげる費用が3
千円と理解したように思います。

途中で募金をやめることは、その子ど
もさんが途中でサナトリウムから出ない
といけないことになるのではないかとこ
う不安があり、ずっと続けていこうとそ
の時決心しました。

●これからへ向けて、メッセージなどを
お願いします。

ただ募金を送らせて頂いているだけ
で、活動に対して役割を果たせていない
ので、いつも申し訳ないような気持ちで
すが、CMNの皆さまのお陰で、私たち
とチエルノブイリの子どもの間とがつか
なつていような気がして嬉しです！
これからもよろしくお願いいたします。

次号掲載予告

プロジェクト評価のための
調査団を派遣！

5月16日～25日の10日間、スタ
ッフの寺嶋と医療通訳・コーデ
ィネーターの山田英雄さんの2名
で、ベラルーシを訪問しました。

今回の目的は、現在成熟期を迎
えつつあるプレスト州での甲状腺
ガン検診プロジェクトに関して、
私たちの支援内容が本当に役立つ
ているのか、現地のニーズは何か、
チエルノブイリを巡って他団体は
どのような活動をしているのかを
整理すること。

通常の検診団派遣の限られた日
程では詳しい取材や調査を行うこ
とが難しいため、今回は調査・取材
に目的を絞って訪問し、今後より
効果的で充実した支援活動につな
げることが目的でした。

7日間の滞在期間中に移動した
距離はおよそ1100km。ミンス
ク、プレスト、ゴメリと回り、関係
機関からヒアリングを終えて帰国
しました。

取材結果は、次号の通信に掲載
予定です。お楽しみに！



プレスト州移動検診チーム
スタッフよりヒアリング

たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同・敬称略)

青木浩子 赤尾幸世 秋田正洋 吾郷成子 樋田武廣 荒井
真佐子 生田裕美 生田裕子 池浦慶子 池田和子 石川睦
枝 石田直美 石塚恵未 石橋芳子 石原和子 井手美和子
伊藤和夫 稲吉清子 井上信子 井上房子 井上優子 井
上春海 井野口典子 井村美知子 井本節子 弥永美保
(医) たかはし小児科医院 岩尾幸代 岩佐由未子 岩下清美
岩田寿孝 岩森久美 上田和子 上野三佳子 内田さゆり
宇都宮裕子 NPO法人じやがいものおうち 榎本みつ枝
大川美紀 大河原しおみ 大城りか 大久保弘子 太田千
賀子 太田昌子 大野久恵 大橋有香里 大島千恵 岡田起
子 岡田敦子 緒方俊一郎 緒方靖子 岡本順子 小川令美
沖美智代 オヒロ・イラヌ&枝美子 小山信子 甲斐利
恵 桂木美由紀 勝連夕子 加藤美千代 上柿元啓子 加納
尚美 上條千栄 上村美穂子 亀井廣子 川上真理子 河口
友子 川島則子 川内裕子 川野桂子 川原京子 河原桂子
川原登喜の 河本亜紀子 神崎幸子 菊純子 菊池順子
菊池紅 岸川美好 貴田典子 北坂修 来山悦子 木下安代
木下るみ 久保力三子 久保田啓子 久保山彬子 久保山
千可子 久保山菜摘 熊谷章子 蔵本一郎 グリーンコープ
生活協同組合お小 黒河恵子 黒川富秋 桑田みゆき
桑山道子 許斐秀男 小出隆司 古賀尚子 小山公子 足永
俊和(財) 福岡WCA 佐伯真紀 酒井真理子 笹川安子
佐々木淑子 貞方智子 定村洋子 澤田和子 篠原美希枝
渋谷幹子 渋谷けい子 週刊金曜日長崎読者会の皆様 庄
籠道子 正志美恵 進藤輝幸 杉山佳代子 角崎美礼 隅田
三和 善光寺・青木敬子 高木裕子 高永弘子 高藤富美子
高村久 高柳俊哉 高山幸子 詫間和子 竹田節子 武田
ふじ子 竹元和子 田代トヨミ 田代眞理子 田中和枝 田
中輝子 田中直子 田中眞理 谷口マチ子 谷口光子 忍
千恵 土田勝子 土屋智弘 堤淑子 鶴岡直美 寺川玉 遠
山祥子 時田ちず子 戸田美佐子 鳥井原桐子 長江弘子
長江真弥 中川いく子 中島直子 中嶋博美 中島まゆみ
中田幸代 長谷知子 永野隆文 中原布紀子 長棟かおる
中村照子 中村典子 中本治嘉子 柳楽翼 新美郷子 西す
み子 西浦麻記子 西田和子 西村信代 西村元子 西山千
代乃 覚正寺 新田洋司 二ノ方薫 野中孝子 野村幸子
長谷川ナデア 濱田敦子 原博一 針生千秋 檜垣まり
久岡喜美子 日高礼子 平田節代 平田弘子 福嶋真子 福
山知恵子 藤田ゆみ 藤林美紀子 藤平理香 藤本千絵 藤
本由紀 藤原孝子 ふるかわ歯科医院・古川直樹 ぼこあほ
こ 堀田静穂 本田美穂子 前田晶子 前田ナキ 眞澄隆道

合計 2,387,143円

活動支援金 2,288,643円
のぞみ21カンパ 69,000円
雪だるま3号カンパ 29,500円

増本美樹 松尾菊恵 松尾満子 松岡和子 松木文枝 松下
京 松山京子 馬庭あつ子 丸田裕子 水落靖子 實取久美子
三根麻理子 三宅哲子 宮本美智子 村上和代 村上せつこ
村上由美子 めぐみ保育園職員一同 毛利静子 本岡眞利子
森潤子 森田尚美 森永明子 山浦真司 山口知与子 山口
朋子 山下悦子 山村純子 山本潤子 山本夕マ子 山本直美
吉岡すみれ 吉開百合子 吉崎清子 吉田清明 吉田聖子
吉野陽子 吉村淳子 吉元京子 四元洋子 和田政子 渡辺
中西・沖 渡辺絹子 渡辺久美子 渡邊陽子

【北海道】2名 【富山県】1名 【東京都】2名 【神奈川県】
1名 【千葉県】1名 【埼玉県】1名 【静岡県】1名 【大阪府】
3名 【兵庫県】4名 【鳥取県】2名 【島根県】9名 【岡山県】
3名 【広島県】15名 【山口県】19名 【愛媛県】1名 【福
岡県】49名 【佐賀県】8名 【長崎県】16名 【熊本県】34名
【大分県】17名 【宮崎県】4名 【鹿児島県】8名

●マンスリーサポーターの皆様

相川靖 相羽美香子 麻生絹代 石本祥二郎 儀道綾子 一瀬
和美 稲田照子 岩口香織 上田英子 植田清子 内野希和美
延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大崎知恵 大百合合 大
場満 片岡八重子 金山涼子 紙森優子 河上雅夫 川崎清美
川尻愛子 木村雅子 古賀輝洋 後藤宇仁子 財津悠子 斉
藤美代子 坂口馨子 櫻井美喜子 佐竹早苗 佐藤一江 佐藤
進一 佐藤照子 清水悦子 白浜千恵子 鈴木弘子 首藤展子
平笙子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部
千鳥 土持秀男・由利子・朱加 網脇牧子 坪川裕子 富永隆
史 友景忍 鳥原良子 永江之江 永尾ゆかり 永野沙智子
中村洋子 榑崎悦子 西井えりな 丹羽道代 納富育代 廣松
初美 福井初子 藤本孝子 澁田三輝 前田靖子 松尾智恵子
松永庸子 丸山小より 水本敬子 三野桂子 村田聡子 村
西美由紀 室屋芳乃 森川キミエ 山下澄子 山中陽子 山本
亮輔 吉田美抄子 LIFE&ART青空・東海林由紀 渡邊
真志子
計91名(匿名含む)

(2010年2月1日〜4月30日までに募金を下さった方
ならびに「のぞみ21」雑誌、チエルノブイリ支援コーナー・紅
茶の購入を通じて活動を支援して下さいました方です。通信にお名
前を紹介することを許可いただいた方のみ掲載しています。)

皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

● 忘れられない事実をたくさんの人に気付いてほしい。
● ささやかな支援ですが、未永く続けたいと思っています。
● 核による被害は長年にわたって続くのですね。実感させて
もらっています。● 若い方々に支援の輪が広がっていきま
すように!! 私に住む町にも原発があります。人ごとではあり
ません。今なお苦しみの中にある方々の回復をお祈りします。
● 日本でも危険極まりないフルサーマルを始めますが、
即刻中止すべきです。● 地球を守るのも、壊すのも人間。ど
うか地球のみんなが心から笑える本当の幸せに気がつき、変
わっていかれますように。● 平和に暮らしていた善良の市民
が犠牲にされて、二度と発生してはならない事故だと思いま
す。● 苦しみ、不安とともに過ごしてこられた日々を思うと、
安易に原子力発電に頼ってはならないと思いました。● 決し
て忘れてはならない問題だと自分に言いつけています。子ど
もたちのことが気がかりです。● ほんのちよつとの真心が届
きますように。● チエルノブイリ事故以来、苦しんでおられ
る方々が救われますように。● 現在でも高い放射能が放出さ
れ続けているチエルノブイリ原発。日本でもいつ起きてもお
かしくない環境です。● 長崎で生まれ育った者として、チエ
ルノブイリの事は他人事とは思えません。● 一日も早く笑顔
の日々を送られますよう、心から念じております。● 被曝で
苦しむ人々がいなくなることを願っています。● 医療スタッ
フの方々の活躍を応援いたします。● 何か自分ができるこ
とはないかな...と日々思っている中、こういう形で支援で
きることがありがたくなります。● これからも活動がんばって
ください!! 世界から原子力、核がなくなりますように。● 原
発事故の被害を受けて病に苦しむチエルノブイリの皆様、快
復お祈り致します。● 支援される皆様お疲れ様です。● 忘れて
はならない出来事です。● 原子力発電所も核爆弾も、世界か
らなくなるように強く願っています。● そのため一人一人が
できることを、今からしなくては!! おいしいコーヒーと紅茶
ありがとうございます。● 日々の暮らしに追われ、つい忘れ
そうになるのが怖いと気を引き締めています。● スタッフの
皆様、これからも頑張ってください。● 日本のあちこちにある
原発、そして作られようとしている上関原発。これでいいの
でしょうか?

編集後記

今回の80号より編集メンバーに加わりました。
今年度は団体設立から20周年になります。記念メッセージもま
だまだ募集しておりますので、たくさんの投稿お待ちしてい
ます。(ワタ)